

2025.11.14 《FRI》：InterContinental Tokyo Bay

# 2025 DSF 全国発表大会 in Takeshiba

Document Service Forum  
SINCE 1997  
A USER FORUM AIMED AT ENABLING  
DIGITAL TRANSFORMATION (DX)  
TO CREATE THE NEW DE FACTO STANDARD  
FOR ON-DEMAND PRINTING.



去る11月14日、東京竹芝のホテルインターコンチネンタル東京ベイにて『2025年DSF全国発表大会』が開催されました。午前中は2025年度第二回理事会があり、13時半よりプログラムに沿って、リアル62名、リモート37名の参加を賜り、全国発表大会が進行されました。また、特別講演として、日本バレーボール協会副会長の金川氏より「勝つ組織はこうやってつくる」と題してご自身の経験と日本バレー界の改革についてのお話をいただきました。

午前中行われた理事会において、来年（2026年）のスケジュールが決まりました

## 《2026年のスケジュール》

- \* DSF新年会： 2026年1月29日（木）18:00頃より（東京 銀座）
- \* DSF理事会①： 2026年1月30日（金）10:00～（会場未定）
- \* DSF総会： 2026年1月30日（金）13:30～（会場未定）
- \* DSF中間発表会： 2026年7月3・4日（金・土）（沖縄開催候補予定）
- \* DSF理事会②： 2026年11月13日（金）AM
- \* DSF全国発表大会：2026年11月13日（金）PM

役員・理事は継続留任、また研究会活動フォーメーションについても、今年同様の布陣で臨むことが決議されました

研究会レビューにおいては、「AI」の必須、利活用の推奨を掲げており、どんどん実践に移っている印象です AI自体も日々進化しており、活用フェーズを意識しながらイメージできるように更に進めて行きましょう

## 《2025年全国発表大会》

発表大会は、富士フィルムビジネスイノベーションジャパンGC営業統括部の不破晶子さんの司会進行で始まりました。



司会：不破 晶子さん

## 【DSF会長ご挨拶】

●株式会社ユーメディア 今野 均 社長

冒頭に最近ニュースが続いている「熊」に関しての話がありました。気候変動で餌不足により人間の生活圏に当たり前に存在するようになったということから、人間社会においても急激な変化が起きていることを仕事に置き換えた時に、その変化に対してすぐに対応し即断即決しなければいけないこと、またアップデートも必要だと述べられました。それから数の数え方に関して、動物や魚、鳥の数え方を踏まえて人の数え方の話をされ「三流は金を残す。二流は名を残す。一流は人を残す。」ということから会社の経営においても人を残す、人が育つような、運営を志していきたいと話されました。このDSFにおいても人を育てていくという観点で会が循環するような、そんな仕組みを目指していきたいと述べられ、本日の発表会が有意義な時間になるようにと挨拶を締めくくりました。



今野会長 ご挨拶

## 【FBJご挨拶】

●富士フイルムビジュアルコミュニケーションズ株式会社 GC営業統括部 近藤 哲也 統括部長

続いて富士フイルムビジネスソリューションズジャパンGC営業統括部の近藤統括部長が登場し、富士フイルムAI技術ブランド「REILI（レイリ）」の紹介があり、画像解析技術や社内業務に既に活用されていると話されました。また実際に生協様での活用事例として需要予測にAIを活用していることや、廃棄コストの削減等で成果が出ているという話をされ、このような話があればご相談くださいと結ばれました。

このあと各研究会の発表に移りました。各研究会ともこれまで密度の濃い議論を重ねてきており、ここまでの進捗について各リーダーからの発表に入りました。

## 【デジタルマーケティング研究会】

●リーダー： ヤマゼンコミュニケーションズ株式会社 山本 堅嗣宣 社長

活動指針は「デジタルマーケティングの実践と共創」、「生成AIと新技術を活用した顧客接点の最適化」です。売上に直結するマーケティングの実践を目指します。目指すべきゴールとしてはデジタルマーケティングの利活用、導入、実践、実績に繋げることです。今年度の活動内容として、生成AIの基礎理解を深める講演会を実施したことにより参加企業で各AIツールの利用を有償版への切り替えが進むなど大きな影響がありました。MAツール、生成AI時代のSEO対策についての学習、またNFC（近距離無線通信）技術の体験会を実施し、ビジネス活用アイデアを共有されました。来年度に向けてはAI活用研究をさらに進め、印刷業界における新しいデジタルストックビジネスモデルの開発を目指していきたいと述べられました。



近藤 統括部長



デジタルマーケティング研究会  
山本リーダー

## 目指すべきゴール

### デジタルマーケティングの利活用 導入⇒実践⇒実績へ！！

- CRM・SFA・MAなどの導入・活用を促進しより多くの実践、データの共有
- AIの活用研究
- 生成AIを活用した効果的で効率的なコンテンツ制作実践
- 生成AIによる企画提案と制作物の生成
- SNSによるマーケティング活用研究
- NFCを使ったコミュニケーション・マーケティングの創出
- 新たなデジタル中核動向を把握・先取りするための情報共有と学び
- FFB1さん新サービス、レポリアルマーケティング活用研究
- G44研発表

## 活動報告⑤ (9月10日)

【当日内容】  
■懇話会出席報告  
NFCの導入と活用  
NFC Near Field Communication (13.56MHz)の活用と導入事例  
■NFCの活用  
■生成AI活用  
■デジタルマーケティングの活用  
■生成AI活用  
■生成AI活用

【当日の学び】  
1. 生成AIの活用  
2. 生成AIの活用  
3. 生成AIの活用  
4. 生成AIの活用

## 活動報告⑥ (10月21日)

【当日内容】  
■NFCの活用  
■生成AI活用  
■デジタルマーケティングの活用  
■生成AI活用  
■生成AI活用

【当日の学び】  
1. 生成AIの活用  
2. 生成AIの活用  
3. 生成AIの活用  
4. 生成AIの活用

## 【人財育成研究会】

●リーダー： 河北印刷株式会社 中條 遥 社長

今年度の活動テーマは「管理職としてのリーダーシップの育成」です。2024年にメンバー各自が策定した「リーダーシップ宣言」の実践と振り返りを中心に、1on1の課題や部下の自律性促進などについて議論し、スキル&ウィル マトリックスという考え方を学習し、部下の状況に応じた指導方法を学びました。最終回では、各メンバーが経営層に対し、自身の目指すリーダー像と今後の活動方針コミットメントを宣言することで、参加者は自身のリーダー像を確立し部下に寄り添う姿勢や人材育成への意識が大きく向上していると話され、是非来年また新たな形でテーマを決めて継続してやっていきたいと発表を締めしめくりました。



人財育成研究会  
中條リーダー

## 人財育成研究会 テーマ

■活動テーマ  
▶管理職としてのリーダーシップの育成  
～「2024年私の目指すリーダーシップ宣言」の実践実施とフォロー～

■目指すべきゴール（基本的な考え方）  
\*各自コミットした《私の実行宣言》の実践とトライアンドエラー  
\*新たな課題の抽出  
\*上司・自分・部下の成長  
※最終10月には今年も経営層にご参加いただき、各社にフィードバックします。

## 各回のスケジュールとテーマ

回次	日時	会場	当日のテーマ	Agenda
スタート	9月10日	リアル	ガイダンス	1. 今年度プログラムのテーマと進め方を検討（全員） 2. スケジュールを決定（全員）
第1回	9月16日（水）	オンライン	年間の進め方と目標の明確化	1. 2024年度の進め方と目標の明確化 2. 各自の得意分野と得意分野の共有 3. 年間の進め方と目標の明確化 4. 次年度のスケジュール決定
第2回	9月18日（水）	オンライン	新メンバーの拡大	議題： 新規メンバーの拡大 議題： デジタルマーケティング 【自分のリーダーシップが周囲にどう影響を与えているか】
第3回	9月19日（木）	オンライン	組織文化への浸透	議題： 組織文化への浸透 議題： デジタルマーケティング 【組織の価値観とリーダーシップの整合性】
第4回	9月20日（金）	オンライン	リーダーシップの発揮	議題： リーダーシップの発揮 議題： デジタルマーケティング 【自己決定型リーダーシップの実践】
第5回	9月27日（木）	リアル	チームの自律性を高める	議題： チームの自律性を高める 議題： デジタルマーケティング 【チームメンバーの自律性を育てるには？】
第6回	10月15日（水）	リアル	最終報告会	1. 1年間の振り返りと進捗を振り返る 2. 実行計画と目標達成できた点共有 3. 継続して取り組むことと宣言

## まとめと今後の展望

参加者それぞれが悩みを打ち明け、励まし合いながら1年間進められたと思います。研究会だけでなく、会以外での交流もあり、有意義な会になったと感じます。各々理想のリーダーシップに到達するのは、すぐに難しいかもしれませんが、やること決めたことを継続して取り組んでいくことが重要だと思います。これからも頑張っていきたいと思います。

経営者の皆様へ  
参加者の皆さんは自身の為だけでなく、会社をより良くするために一生懸命取り組んでいらっしゃいます。すぐに結果や数字へ表れるものではありませんが、会社での活動をぜひよく見ていただければと思います。よろしくお願いたします。

## 【DX研究会】

●リーダー：株式会社オーディーピーセンター 林 敬太 会長

2025年度のDX研究会は「業務効率化のDXを実現し、より高い効率性でワークフローを構築すること」をテーマに生産領域にとどまらず、営業や管理部門などの業務とシームレスな連携で、業務の見える化、効率化、ヒューマンエラー抑制を目指し活動してきました。堀場製作所の工場見学では現場主導の改善サイクル「見える化から見える化へ」の重要性を学ぶことができました。また、ワークフロー自動化ソフト「Revoria Press Ready」のトライアル中である、コムラの小森様からその活動状況について報告されました。FreeFlow Coreの完全な代替ではないが、操作性の良さや将来性を評価しつつメーカーへの継続的な改善を要望されました。最後に参加者の横のつながりや、現場感こそが最大の成果だったのではないかと述べられ、DX研究会は同じような悩みを抱えた仲間が集まって、意見を交わす場になっていければと思っていますと締めくくりました。



DX研究会  
林リーダー

### DX研究会 2025年の目標

- 活動テーマ
  - ▶業務効率化のDXを実現し、より高効率のワークフローを構築していく
- 目指すベゴール
  - 生産領域にとどまらず、営業、管理部門等の周辺業務とのシームレスな連携を推進し、業務の見える化、効率化、ヒューマンエラーの抑制を実現し、定量化したゴールを目指す
  - 生体AI、RPA、クラウドサービス等を使った実践的共有化
  - 各社の課題解決における取り組みなど良い事例を自社に取り込み実践していく
  - DX関連展示会見学を実施し、最新情報を収集する
  - 工場見学を実施し、現場間の交流を促す
  - Free Flow CoreがRevoria XMF Press Readyへ円滑な移行を進めるための要諦と方とをめ

### 堀場製作所びわこ工場（HORIBA BIWAKO E-HARBOR）見学

2025年9月29日第5回研究会では経営者の会との共催で、堀場製作所びわこ工場を訪問し、製造現場における実践的なDXの取り組みを見学しました。

#### 現場起点の改善提案やデータ活用

- ・行動員による仕組み設計・標準化支援
- ・管理・運用の無人化を妨げつつ、現場の納得感を得られる仕組みづくり
- ＝これらがバランスよく進んでいる点において、堀場製作所の取り組みはとて参考になりました！

#### 印象的だった取り組み

- 「見える化」から「見える化」へ
  - 改善の成果や仕組みが常に共有・提示されており、「説明なしでも伝わる現場」を形成
  - 継続的な改善サイクル
  - 従業員からの提案を制度として組み込み、表彰や評価にも反映
  - 現場の改善活動が文化として定着
- 5Sの徹底とデジタルデータの統合
  - 整理・整頓・清掃だけでなく、配置や作業動線にも明確なルールがあり、必要な情報や部品が「自然と使いやすい」環境に！
  - (9月22日に開催された富士アイルム「FutureEdge」見学の際にも同じことを感じました「ご安全に」)

### 活動スケジュール

	スタート	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
DX研究会/研究会日程	2/28	3/28	4/28	5/28	6/28	7/28	8/28	9/28	10/28	11/28	12/28
1 概要説明会	2/28	3/28									
2 PressReady実務者向け勉強会	3/23										
3 トライル先への標準準備→PR物品・設置	3/26										
基本・目標1 1. PressReadyサンプルの作成/設置/クッキー	3/27										
基本・目標2 2. ユーザーの受入と高効率のPR作成/設置/クッキー	3/29										
6 応用 サンプルWF発表	3/26										

●株式会社コムラ 小森 智治 部長

「Revoria Press Ready」のトライアルのレビューについての報告。現在も進行中であり、FreeFlow Coreからの移行の実現性について、実務上の使用感を交え、「何とかなる！」との報告がありました。ソフトウェア自体は別物であり慣れることで移行は可能であるが、細かい仕様面においては継続してメーカー側の機能改善が必要との報告がありました。

### PressReadyトライアルレポート

<FBJ 様 ⇒ DX研究会へ提案> ①基本 ②応用 の 2つの流れ

手段	FBJ 開発	ユーザーメリット
<b>基本</b>	PressReadyトライアルから実績販売の近い段階で提案	PressReady導入後、CoreのWFが稼働しやすくなり、稼働率が高い
<b>応用</b>	DX研究会ユーザーの共通性の高い業務の活用を促進し、PressReadyサンプルWFを構築	サンプルWFをベースに従来WFの活用も可能で、移行工費を省かせる

### PressReadyトライアルレポート

スケジュール	2/28	3/28	4/28	5/28	6/28	7/28	8/28	9/28	10/28	11/28	12/28
1 概要説明会	2/28										
2 PressReady実務者向け勉強会	3/23										
3 ①基本 トライル先への標準準備→PR物品・設置	3/26										
①基本 目標1 1. PressReadyサンプルの作成/設置/クッキー	3/27										
①基本 目標2 2. ユーザーの受入と高効率のPR作成/設置/クッキー	3/29										
6 ②応用 サンプルWF発表	3/26										



DX研究会  
小森氏

### PressReadyトライアルレポート

現時点での総評

- ☑ 操作性や自動化機能（関数など）は、進化している一方で、設定箇所が増え、初期慣れが必要
- ☑ 特に、トンボ・ノド側処理・配置基準などは要改善ポイントとして、メーカーにフィードバック中
- ☑ 総じて、「日本語UIで扱いやすいが、熟練者にはもう一段、細かい制御が欲しい」という印象

完全な代替ではないが、**再現性は十分**

### PressReadyトライアルレポート

今後の進め方（円滑な移行に向けて）

1. 設定された制作課題のクリア
2. 導入サポート・移行サポートの協議
3. 省力化・効率化への実現性を追求

メーカー側の支援体制と、柔軟な改善サイクルに期待



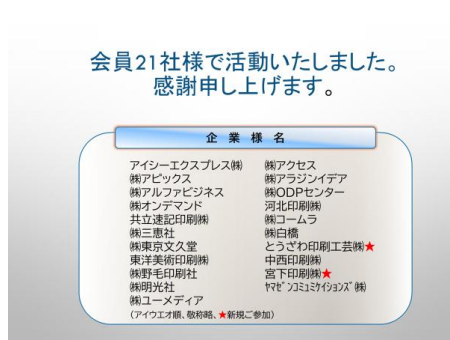
## 【社会貢献活動】

●担当理事：株式会社オンデマンド 生島 裕久 社長

今年度の社会貢献活動は全国66校の視覚支援学校・盲学校からのリクエストに基づき、協力企業21社が計676冊の拡大本を寄贈しました。直接納品に訪れた際に、現場の教員の方々から、紙の教材が持つ「選択肢」の重要性や、学年を超えて活用されていることを生の声として確認することができ、依然として高い需要があることが確認できたと述べられました。拡大本の制作については毎年夏休み明けぐらいから全国の視覚支援学校・盲学校に対して必要部数を確認します。その後協力会社様ごとに製作配分を分配し、製造や発送作業に入る流れとの説明がありました。また実際の学校への訪問納品時の写真が写され、その際の状況も共有されました。社会背景から生徒数が減少することによって、希望の数量は減少傾向ですが、教育の実際の現場からは、是非必要という声が届いていますので、来年もご協力をお願いいたしますと締めくくられました。



社会貢献活動  
生島担当理事



寄贈の様子: 共立速記印刷株式会社様



寄贈の様子: (株)オンデマンド



寄贈の様子: (株)白橋様



## 【特別講演】

●日本バレーボール協会副会長 兼 SVリーグ理事 金川 裕一 氏

### ■講演テーマ：日本バレー界の改革からもわかる「勝つ組織はこうやってつくる」

金川氏は1982年早稲田大学を卒業後、横河電機に入社され横河電機バレーボール部の監督や早稲田大学バレーボール部の監督を歴任されました。企業内ベンチャー制度を利用した起業経験をもとに「企業雇用」をテーマとした著書を出版。いくつかの企業経営を歴任し数々のメディアにも出演しています。現在は日本バレーボール協会副会長及びSVリーグの理事としてご活躍されています。

講演では日本バレーボール界の現状と課題から触れ、かつての栄光から一転、長期低迷に陥った原因として、グローバル化と高身長選手に有利なルール変更を挙げられました。一方で、国内の競技人口やファンの観戦意欲は高く、ポテンシャルは非常に大きいと分析されています。自身が副会長に就任後、相次ぐ不祥事を受けて幹部の総入れ替えを行いました。コンプライアンスの強化や地方組織の法人化、体罰撲滅など、多岐にわたる協会改革を断行し、改革を推進してきました。選手の待遇面（報酬、移動環境）の改善や、プロ経営者を招き組織改革へも着手しました。勝つ組織の条件として個の力の強化が必要であり、個が海外で挑戦しスキルを上げることがチーム力向上に繋がることを訴え、人材への投資の必要性も伝えられています。良い人材を採用・教育し、良い環境と責任を与えて任せることが成功の鍵であり、「物への投資と異なり人への投資は価値が減少しない」と述べられました。過去の栄光にすがらず、常に挑戦する姿勢が重要であり「成長を求めない組織は衰退する」と強調。マネジメントの転換として一方的に教える「ティーチング」から、相手から答えを引き出す「コーチング」への転換が不可欠であると述べられました。また他のスポーツとの売上や利益比較、各スポーツの人気度や人口の話にも触れ、バレーボールをプレーする人口は世界で一番だと述べられました。最後に私の宝物と題して写真を共有されこれまでの様々な方との出会いを紹介され講演を終了しました。



日本バレーボール協会副会長  
兼 SVリーグ理事  
金川 裕一 氏

◆ 講師紹介

Document Service Forum

▶ 金川 裕一 氏



**人物**  
1980年から1981年、早稲田大学体育会バレーボール部キャプテン。1996年、早稲田大学バレーボール部で本間文雄や浦野剛らを指導。1989年から約2年、横河電機バレーボール部の監督。2016年に横河レンタ・リース株式会社 代表取締役社長に就任した。2011年カナリア賞獲得より、スポーツを通じて学んだ精神と企業内ベンチャー制度を利用した起業経験をもとに「企業雇用」をテーマとした書籍「辛動力経営のススメ」を出版し、各地で講演も行っている。現在は横河レンタ・リースの相談役であり株式会社エルティース、株式会社SMN、株式会社セキアなど数社の役員、顧問を兼務している。公益財団法人日本バレーボール協会副会長、早稲田バレーボール部OB会会長でもある。  
キョーランドエー株式会社 創業者であり、同社を売上200億円まで成長させた。さらに横河レンタ・リース時代は10年間ほど専任していた同社を4年間で社員を揃やらず業績を2倍にし業界トップに再躍させた。  
大企業、中小企業、ベンチャー企業と様々な規模の経営に参画しており、稀有な経験を有しているのが最大の特徴である。

【今回の特別講演】

■ テーマ：日本バレー界の改革からもわかる「勝負組端はこうやって作る」  
日本バレー協会副会長 兼 SVリーグ理事 金川裕一

低迷していた日本バレーボールがここ数年でなぜ好成績を上げられるようになったのか？そこには不祥事続きもありドンドン底になっていた協会の内部改革があった。個々の選手のレベルアップに加えてサポート支援体制の強化、理事などのメンバーの大規模入れ替え、コンプライアンス、ガバナンスの強化などに注力した。企業の組織改革にも大いに参考になるので聴講いただけると幸いです。

経歴

- ・1978年 - 早稲田大学東洋校高等部 卒業
- ・1982年 - 早稲田大学教育学部卒業、株式会社横河電機製作用 入社
- ・1989年 - 横河電機株式会社バレーボール部 監督
- ・1996年 - 早稲田大学バレーボール部 監督、横河電機の企業内ベンチャー制度で、横河マルチメディア株式会社を設立
- ・2001年 - 株式会社キョーランドエーと事業統合  
- 横河キョーランドエー株式会社を設立、代表取締役社長に就任
- ・2003年4月 - 横河キョーランドエー株式会社(現キョーランドエー株式会社)代表取締役社長に就任
- ・2015年4月 - 同社取締役社長を退任、同社代表取締役 執行役員会長に就任
- ・2016年4月 - 横河レンタ・リース株式会社 代表取締役社長に就任
- ・2020年4月 - 横河レンタ・リース株式会社 代表取締役社長に就任  
- SMN株式会社の社外取締役 に就任
- ・2021年6月 - 横河レンタ・リース 会長を退任、相談役に就任  
- 公益財団法人日本バレーボール協会理事に就任
- ・2021年7月 - 株式会社エル・ティース エス 役員に就任
- ・2022年3月 - 株式会社エル・ティース エス 取締役社長に就任
- ・2022年6月 - 横河デジタル株式会社 代表取締役社長に就任  
- SMN株式会社 社外取締役を退任
- ・2022年8月 - アムニエ株式会社 取締役社長に就任
- ・2023年6月 - 公益財団法人日本バレーボール協会副会長に就任
- ・2024年9月 - 一般社団法人SVリーグ理事に就任<sup>1)</sup>

◆ 講師紹介

Document Service Forum

著書

- ・「辛動力経営のススメ」(2011年7月出版 カナリア賞)
- ・「辛動力経営のススメ2—失敗から学んだあくなき挑戦の20年」(2016年4月出版 カナリアコミュニケーションズ)

講演

- ・2011年07月14日：横河電機株式会社主催のフォローアップ研修で経営について講演
- ・2011年10月26日：株式会社ミスター・エムの出版記念イベントで起業理念について講演
- ・2011年11月03日：NPO法人リュウパ主催の『特別講演会』で「辛動力のススメ」について講演
- ・2012年02月08日：東京都渋谷区商理法人会主催の「経営者モーニングセミナー」で「辛動力経営のススメ」について講演
- ・2012年04月16日：東京都渋谷区商理法人会主催の「商理と経営を学ぶ会」で経営について講演
- ・2012年06月31日：横河電機株式会社のグループ会社蘇州横河電表有限公司にて「辛動力経営」について講演
- ・2012年09月25日：東京都美容生活衛生同業組合主催のセミナーで「辛動力経営」について講演
- ・2012年10月11日：三鷹商工会(東京都)の経営講演会で「辛動力経営」について講演
- ・2013年07月30日：東京商工会議所で「社内ベンチャーから100億円企業へ—失敗から学んだ経営の秘訣—」について講演
- ・2013年08月29日：東京商工会議所で「社内ベンチャーから100億円企業へ—失敗から学んだ経営の秘訣—」について講演
- ・2013年09月20日：東京商工会議所で「社内ベンチャーから100億円企業へ—失敗から学んだ経営の秘訣—」について講演

TV出演

- ・2009年10月30日放送：21：00～21：54 BS11『NikkeiOUT』テーマ：「情報格差に商機あり」
- ・2012年08月02日放送：10：50～11：00 FKB毎日放送「宣伝上手」
- ・2012年08月04日放送：14：55～15：00 TVQ九州放送「新PUSH」
- ・2012年08月06日放送：13：55～14：00 KBC九州朝日放送「FOR YOU」
- ・2013年01月26日放送：23：00～23：25 BS-TBS『グリーンへの教え』  
テーマ：「仕事もゴルフも「記録よりも記憶」。そうすれば人とつながりが出来る。」(番組HP)
- ・2013年06月03日放送：10：00～10：54 BS-TBS『グローバルナビフロント』  
テーマ：「IT暗代だからこそ！目指せ、街の電器屋さん」

掲載物

- ・エコノミスト(日本の雑誌) 2010/5/26号 掲載
- ・経営人事対談 Vol.28
- ・特定非営利活動法人 ITジョニア育成交流協会 「ITの活用を変えるサービス—ITジョニアの期に期待」掲載 2011/3号
- ・オピニオン(企業) 月刊「月刊人材ビジネス」の特集：豊田孝の「One for all All for one」でインタビュー「企業の社会的存在意識は「雇用」です」を掲載 2012/10号
- ・ダイヤモンド社 週刊ダイヤモンド 起業家 (P80) 掲載 2012/11/7号
- ・株式会社財界研究所 財界 新年特大号 2013 (P170) に掲載 2013/1/1号
- ・株式会社財界研究所 財界 10月8日号 (P135) 「私の好きな場所」に掲載 2013/10/8号

### 【DSF事務局長挨拶】

●富士フイルムBIジャパン株式会社 青木 稔 氏

金川氏の講演を聞き、自分自身のバレーボール経験を踏まえての学びがあったと述べました。研究会活動においては各研究会ともに活発な議論が行えていることや、日常の業務がある中での取り組みに関する熱量を感じていると報告されました。AIの話題が増えていることに触れ、富士フイルムでのAIへの取り組みも紹介しました。そして今後も研究会に参加し、一緒に活動していきますと締めくりました。



青木事務局長

### 【DSF副会長挨拶】

●株式会社コムラ 鴻村 健司 社長

閉会の挨拶として、発表大会への各地からの参加や研究会のリーダーや準備に関するお礼を伝えられ、そして金川氏の講演を受け、「個の力を強くすること」「共に成長する文化」がとても大切であることを再確認し、人材への投資をさらに進める重要性を認識したと述べられました。

各研究会の総評として、業界が「ものづくり」から「価値づくり」へと進化していることが感じられたことや、DSFは学び合って実践し合う双方向の活動であり、気づきや刺激をそれぞれの現場に持ち帰って次に繋がっていく事を楽しみにしていると会を締めくりました。



鴻村副会長



《全体集合写真》



《リモート参加》

## 【懇親会】

懇親会は引き続き同ホテルで行われました。司会進行は株式会社三恵社の井澤将隆様にお願いし、会の冒頭に富士フイルムイノベーションジャパンの旗生社長にご挨拶をいただいた後、共立速記印刷株式会社の笹井社長の乾杯のご発声でスタートしました。懇親会には講演いただいた金川氏にもご参加いただきました。暫くの歓談後、参加者の皆様から本日のお題として「**今時代は2035年！あなたは10年後にタイムスリップしました。その時あなたは何をしていますか？ その10年後のあなたから、今のご自分にアドバイスやメッセージを送るとしたらどのようなことですか？**」について会員の皆さんに一言語っていただきました。会も進む中、DSF理事 東洋美術印刷株式会社の山本社長に中締めをお願いし、2025年度の活動を締めくり、来年度に向けた活動に期待することを誓いお開きとなりました。



《懇親会風景》



《懇親会集合写真》